

歴史的版図でひもとくロシア

by 青山貞一 Teiichi Aoyama

東京都市大学 Tokyo City University

ロシア・ツァーリ国 (1547~1721)



ロシア帝国 (1721~)



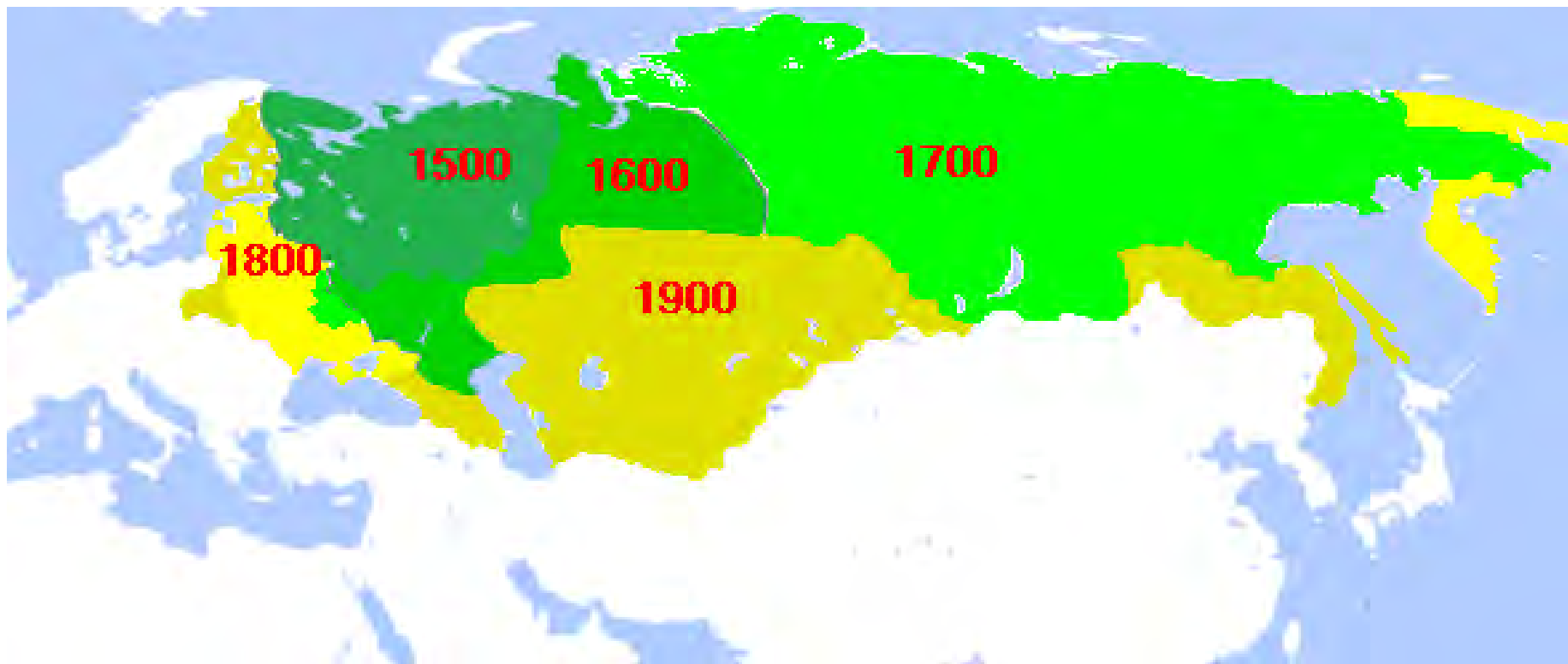
ソビエト連邦 (USSR 1917~)



ロシア連邦 (CIS 1991~)



ロシア帝国の領域拡大



東に拡大するロシア(1600年頃)



ロシア・ツァーリ国の領域(1700年)



ロシア・ツァーリ国



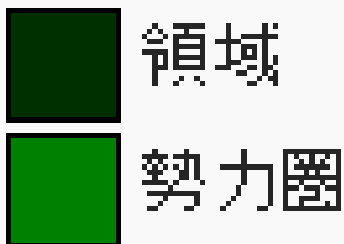
ロシア・ツァーリ国は、1547年にイヴァン4世がツァーリの称号を帯びて以後、1721年にピョートル1世がロシア帝国建国を宣言するまで用いられていたロシア国家の公称である。

西ヨーロッパでは同国をモスクワ・ロシアまたはモスコヴィアなどと呼んだが、これらの呼称は本来、前身であるモスクワ大公国を指す国称であった。

一部の研究者たちはロシアの正式な国称が採用されず、西側諸国で「モスクワ」と呼ぶのが一般化したのは、ライバル関係にあったポーランドの政治的利害関心が原因だと指摘しているが、モスクワ・ツァーリ国家という国称はロシアの歴史家の間で頻繁に使用され、ロシア人たちにも広く認められている。

一方、日本ではこの呼び名はあまり使われておらず、たんにロシアと書かれたり、モスクワ大公国、モスクワ国家、ロシア帝国と書かれることが多い。その他、ロシア皇国、モスクワ皇国などの翻訳があるが、使用例は限定的である。

1866年のロシア帝国



ロシア帝国



ロシア帝国は、1721年から1917年までに存在した帝国である。ロシアを始めフィンランド、リボニア、リトアニア、ベラルーシ、ウクライナ、ポーランド、カフカース、中央アジア、シベリア、満州などのユーラシア大陸の北部を広く支配していた。帝政ロシアとも呼ばれる。

君主がツァーリを名乗ったそれ以前のロシア・ツァーリ国においても「ロシア帝国」と翻訳されることがあるが、ロシア語では「ツァーリ」本来は東ローマ皇帝を指したが、やがて一部の国の王、ハーンなどを指す語となったと「インペラートル」は異なる称号であるため、留意を要する。

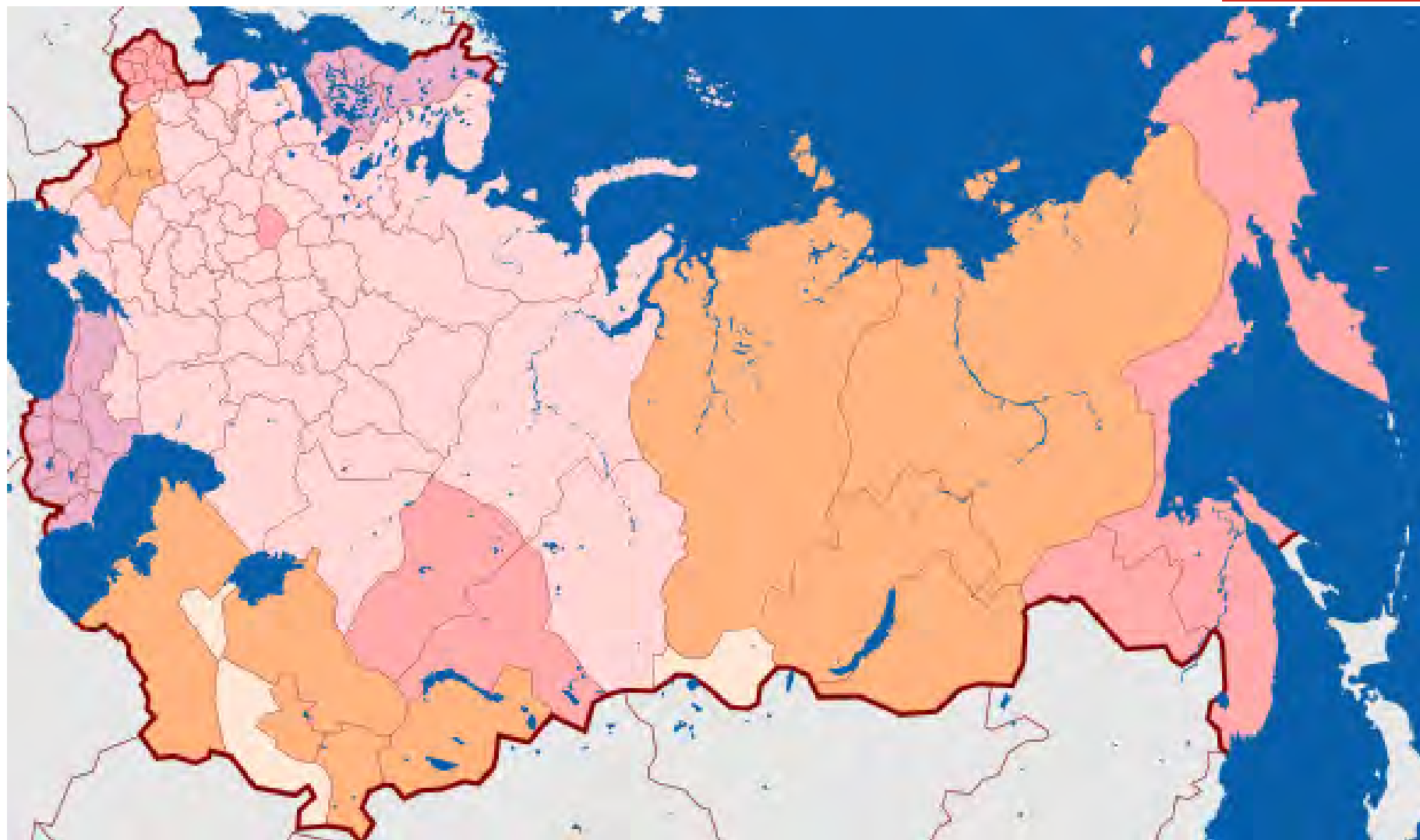
帝政は1721年にツァーリ・ピョートル1世が皇帝(インペラートル)を宣言したことに始まり、第一次世界大戦中の1917年に起こった二月革命でのニコライ2世の退位によって終焉する。

領土は、19世紀末の時点において、のちのソヴィエト連邦の領域にフィンランドとポーランドの一部を加えたものとほぼ一致する面積2000万km²超の広域に及び、1億を越える人口を支配した。首都は、1712年まで伝統的にモスクワ国家の首府であったモスクワからサンクトペテルブルクに移され、以降帝国の終末まで帝都となった。



何と、ロシアが米国に売ったアラスカの販売価格は720万USドル(1871年円-USドルの為替が開始した時の相場は1ドル1円)で、面積単価は約2セント/エーカー(1エーカー=約4047平方メートル)だったそうです。今の価格に変換しても、わずか8億円もしないのです。これであの資源、エネルギーの宝庫、アラスカをロシアは売ってしまったのですね。これがロシアがアラスカを米国に売ったときの小切手です！いかなる理由があろうとも、わずか現在の値で8億円弱でアラスカを米国に売ったのは、ロシアの歴史的廃嫡ですね！ 米国がロシアに渡した小切手です。

1914年時点のロシア帝国の行政区分



出典: Wiki ロシア帝国

1914年時点のロシア帝国の行政区分



1914年時点のロシアは81県(グベールニヤ)、20州(オーブラスチ)そして1行政庁(okrug)の行政単位に分かたれていた。ロシア帝国は中央アジアのブハラ・ハン国とヒヴァ・ハン国を保護国としており、1914年にはトウヴァが加えられている。

11県、17州そしてサハリン行政庁がアジア・ロシアに属している。

8県がフィンランド、10県がポーランドである。残りはヨーロッパ・ロシアで59県と1州(ドン軍管州)となる。ドン軍管州は軍事省の管轄下にあり、その他の諸県州には知事と副知事(行政評議会議長)が置かれていた。これに加えて、複数の県を管轄し、駐留軍の指揮権を含む広範な権限を有する総督が置かれている。

1906年時点でフィンランド、ワルシャワ、イルクーツク、キエフ、モスクワ、アムール、トルキスタン、ステップそしてカフカースに総督府が存在していた。

サンクトペテルブルク、モスクワ、オデッサ、セヴァストポリ、ケルチ、ニコラエフ、ロストフといった大都市は県知事から独立した独自の行政制度があり、警察署長が長官の役割を果たした。

ソビエト連邦



1945年以後のソビエト連邦領

先代	次代
 ロシアSFSR	ロシア 
 ザカフカースSFSR	ベラルーシ 
 ウクライナSSR	ウクライナ 
 白ロシアSSR	モルドバ 
	グルジア 
	アルメニア 
	アゼルバイジャン 
	カザフスタン 
	ウズベキスタン 
	トルクメニスタン 
	キルギスタン 
	タジキスタン 
	エストニア 
	ラトビア 
	リトアニア 

1. ^ロシア語 が既成標準。
2. ^ヨーロッパが4,236,843km²、アジアが17,115,729km²
3. ^ヨーロッパが109,254,300人、アジアが37,759,300人。

ソビエト連邦



ソビエト社会主義共和国連邦)は、十月革命によって成立したロシア・ソビエト連邦社会主義共和国を前身とした、1922年に成立し、1991年に解体消滅した連邦国家。略称はソビエト連邦、ソ連[1]、ソビエト、ソ連邦、蘇維埃など。

社会主義国の代表格であり、ソビエト連邦共産党の一党独裁国家であるが、同時に軍事大国としても有名であり、第二次世界大戦後にはアメリカ合衆国と双璧を成す超大国であった。1991年末に解体され、構成国は独立した。

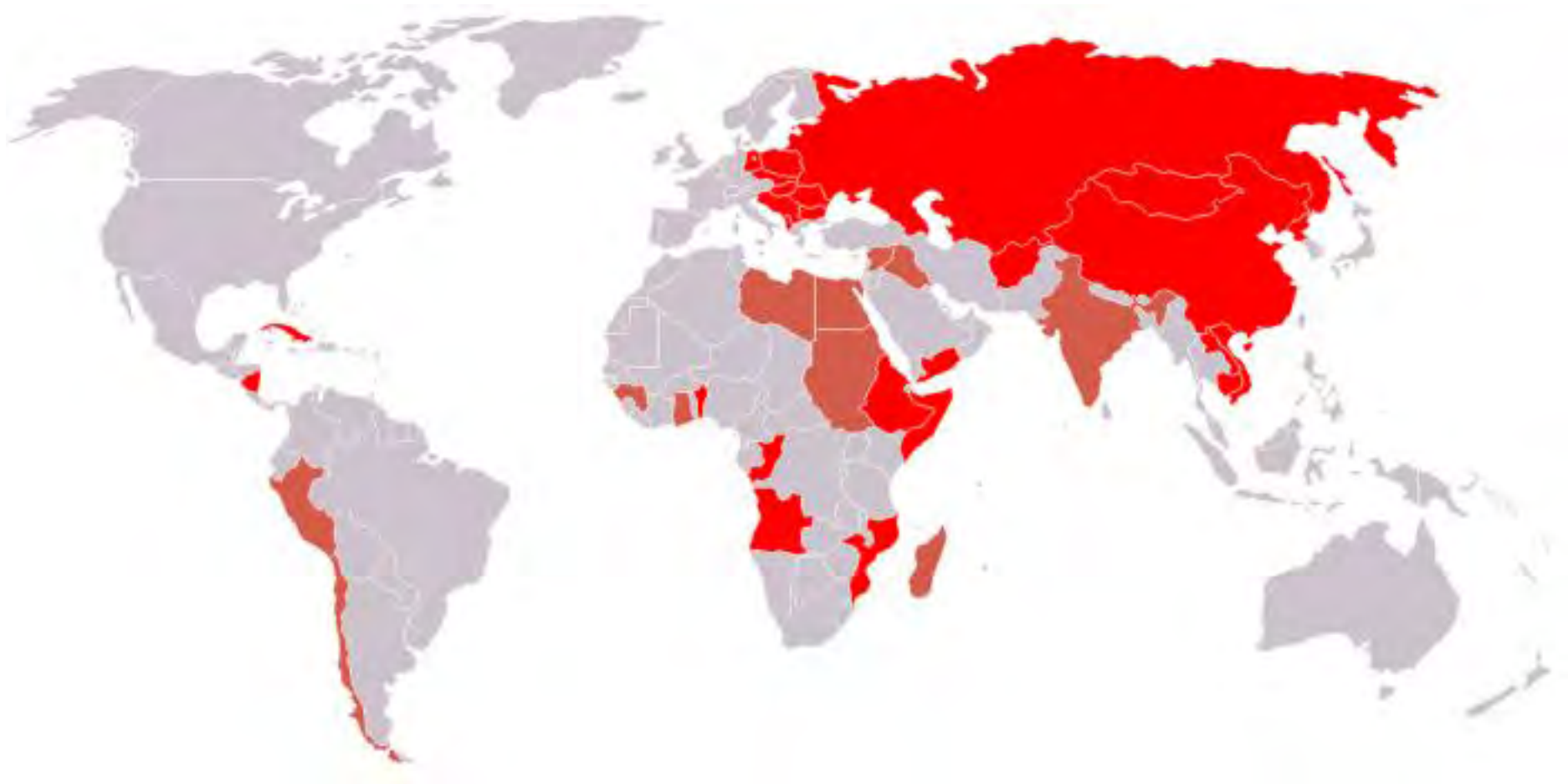
首都はモスクワ。国旗のデザインは、革命を意味する赤地に、労働者と農民のシンボルである鎌と槌を交差させ、その上に五大陸の労働者の団結を意味する五芒星を配した。

ソビエト連邦 vs アメリカ合衆国



1989年時点における米ソの比較 1990年のザ・ワールド・ファクトブックに基づくデータ ^[43] 。		
	ソビエト連邦	アメリカ合衆国
GDP (PPP,1989年 - million \$)	2兆6595億ドル	5兆2333億ドル
人口 (1990年7月)	約2億9093万人	約2億5041万人
1人当たりのGDP (PPP,\$)	9,211ドル	21,082ドル
労働力 (1989年)	約1億5230万人	約1億2555万人

ソビエト連邦



赤が社会主義国、薄い赤がその影響下にある国

ソビエト連邦の外交関係



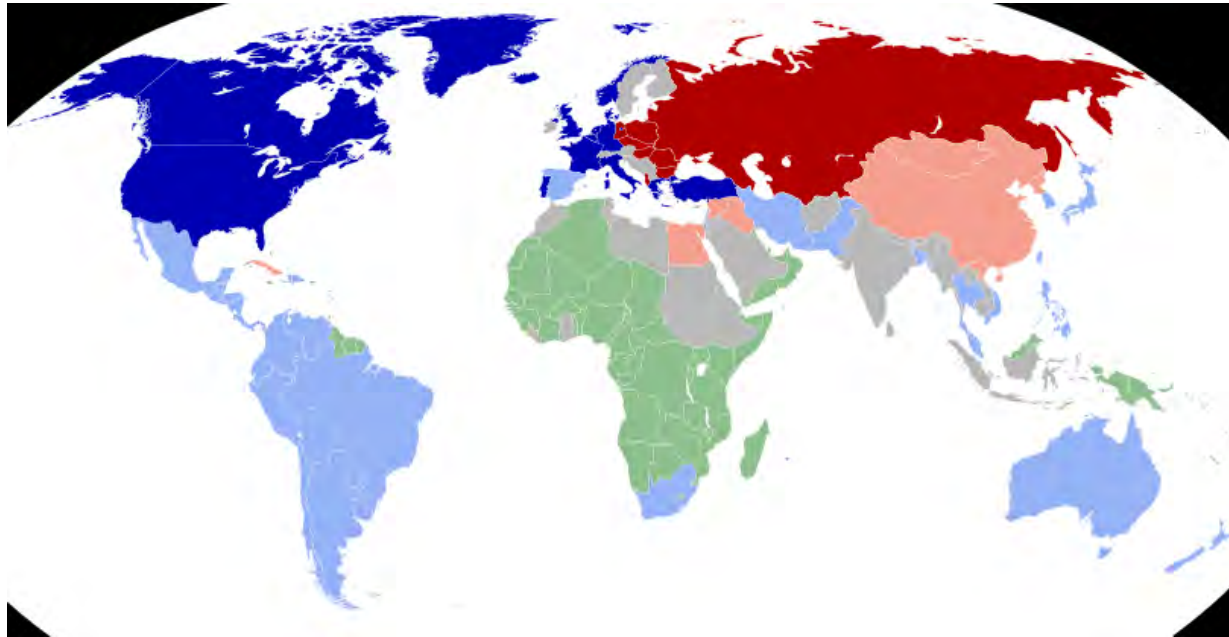
外交関係では、社会主義国(東側)陣営の盟主としてアメリカ合衆国を筆頭とする資本主義国(西側)と対決(冷戦)していた。

成立当初は日本やイギリス、アメリカやドイツなど大国の承認を得られず孤立したが、その後各国と国交を結び、さらに1930年代後半から1940年代にかけては日本やドイツと協定を結ぶ。

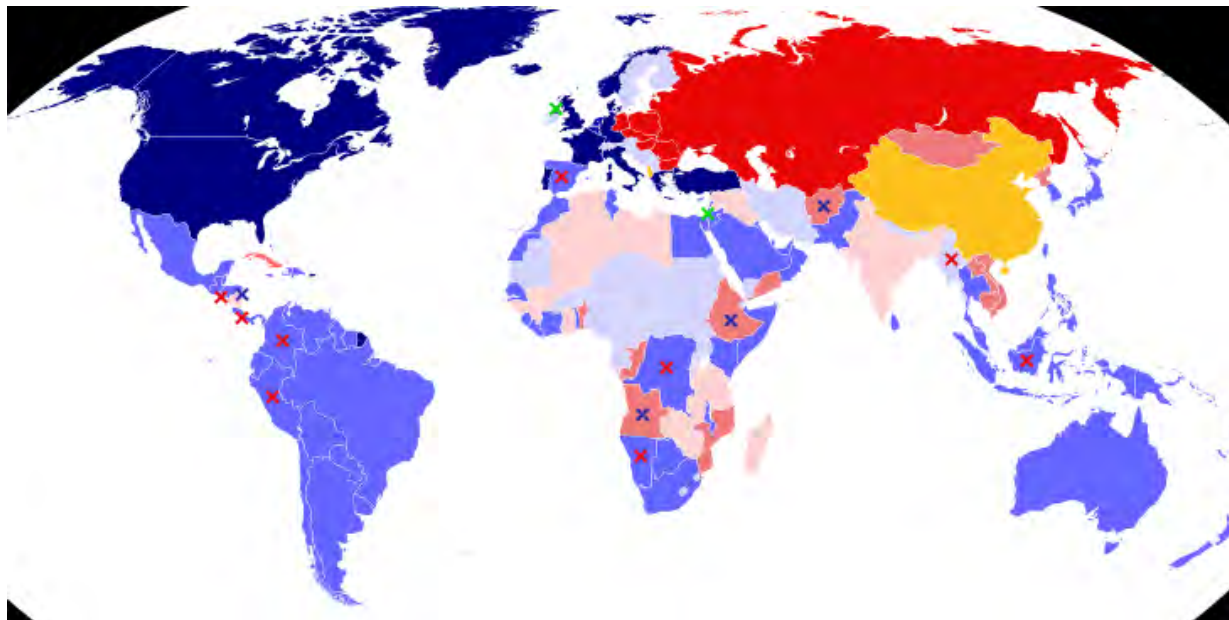
独ソ戦で侵攻してきたドイツを撃退・打倒した第二次世界大戦後に、東ドイツやチェコスロバキア、ブルガリアなどの東ヨーロッパ諸国を衛星国化させた。さらにユーゴスラビアが主導する非同盟諸国と呼ばれる中華人民共和国・インド・キューバ・エチオピア・エジプト・イラク・シリアなどの第三世界と友好協力条約を結び、関係を持つ。

コメコンではメキシコ、モザンビーク、フィンランドといった非社会主義協力国もあった。東アジア(ベトナム、ラオス、北朝鮮など)、中南米(チリ、ニカラグアなど)、アフリカ(アンゴラ、リビア、コンゴなど)などでも「民族解放」、「反帝国主義」、「植民地独立」を唱える共産主義政権(専制政治が行われた政権もある)の成立に協力し、アメリカや西ドイツ、イギリスやフランスなどの西ヨーロッパ諸国、日本などの資本主義国と対峙した。

冷戦構造



1959年の世界の様子
(ワインレッド=ワルシャワ条約加盟国
朱色=共産主義国家以外のソ連よりの諸国
青紺色=北大西洋条約(NATO)加盟国
空色=同加盟国以外の西側諸国
緑=植民地
灰色=非同盟諸国)
色分け。



冷戦の多様化—1980年の世界
(ワインレッド=ワルシャワ条約加盟国
赤=同条約加盟国以外の東側諸国
朱色=共産主義国家以外のソ連よりの諸国
紺=NATO加盟国
青=同加盟国以外の西側諸国
灰色=非同盟諸国
永世中立国
赤い点=左翼ゲリラ運動発生地域
青い点=反共ゲリラ運動発生地域)
色分け。

ロシア連邦



現在のロシア連邦領

出典: Wiki ロシア連邦

ロシア連邦



ロシア連邦、またはロシア(Россия)は、ユーラシア大陸北部の国である。ロシアの国境は、北西から南東へ、ノルウェー、フィンランド、エストニア、ラトビア、リトアニア及びポーランド(ともにカリーニングラード州と隣接)、ベラルーシ、ウクライナ、グルジア、アゼルバイジャン、カザフスタン、中華人民共和国、モンゴル国、朝鮮民主主義人民共和国と接する。

海上境界線としては、日本とはオホーツク海で、アメリカ合衆国とはベーリング海峡でアラスカ州と接する。ロシアの面積は17,075,400km²で世界最大であり、地球上の居住地域の8分の1を占める。

2012年時点で、ロシアの人口は1億4千3百万人で世界第9位である。国土は北アジア全体及び東ヨーロッパの大部分に広がることに伴い、ロシアは11の標準時を有し、広範な環境及び地形を包含する。

ロシア83連邦構成体区分図



8連邦管区区分図

(図中の■印は各連邦管区を中心都市を示します)

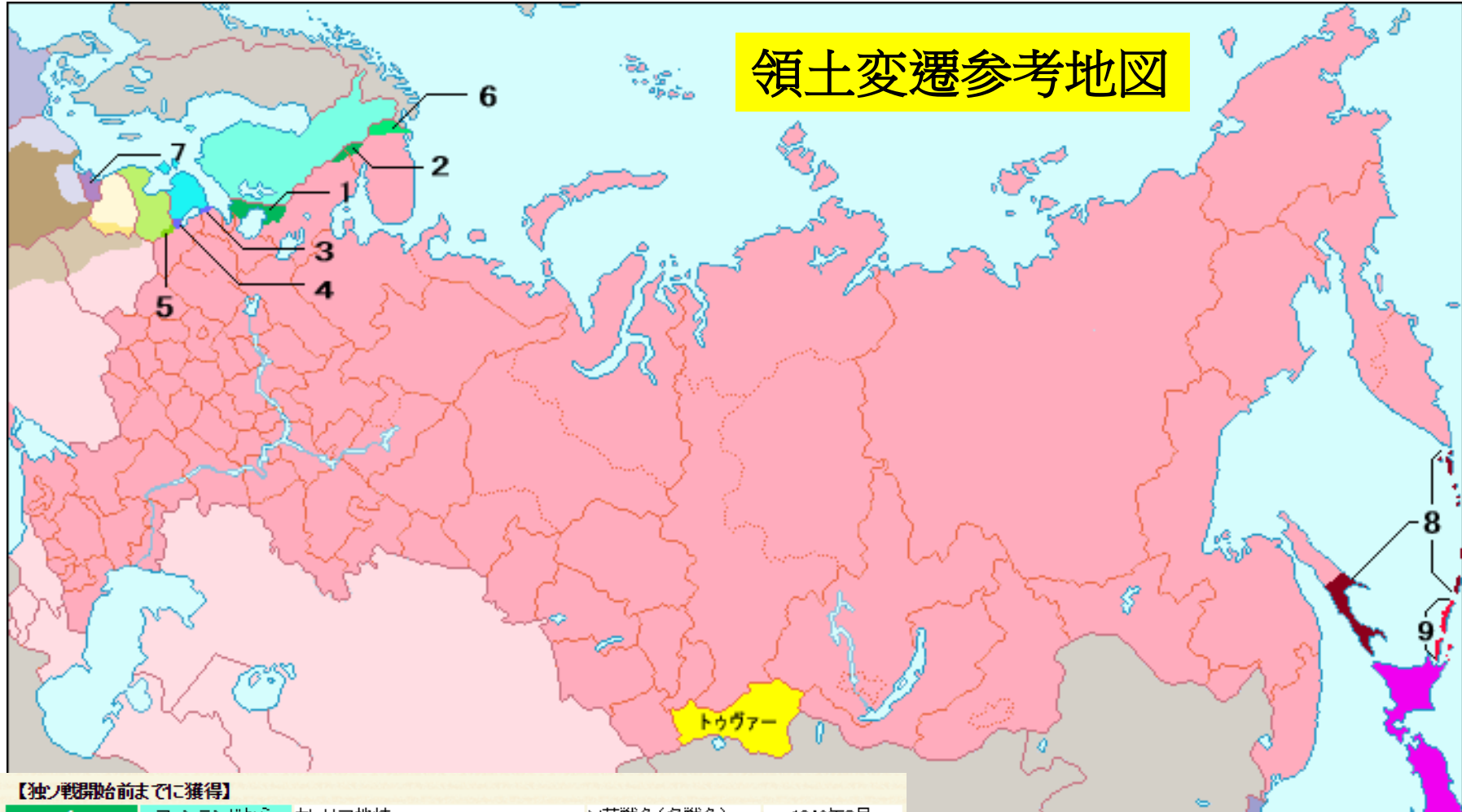


- 中央連邦管区
- 北西連邦管区
- 南連邦管区
- 北カフカス連邦管区
- 沿ヴォルガ連邦管区
- ウラル連邦管区
- シベリア連邦管区
- 極東連邦管区

出典:

<http://dvor.jp/maps1.htm>

領土変遷参考地図



【独ノ戦開始前までに獲得】

1	フィンランドから	カレリア地峡	ソ芬戦争(冬戦争)	1940年3月
2	"	サラ、クーサモ地域	ソ芬戦争(冬戦争)	1940年3月
3	エストニアから	ナルヴァ地峡のナルヴァ川以東	エストニア併合	1940年8月
4	"	ペチョリ地区	エストニア併合	1940年8月
5	ラトヴィアから	アブレネ地区	ラトヴィア併合	1940年8月

【第二次世界大戦中に編入】

トゥヴァー人民共和国	全域		トゥヴァー併合	1944年11月
------------	----	--	---------	----------

【第二次世界大戦の結果獲得】

6	フィンランドから	バルツ海へ至るペツァモ回廊	フィンランド降伏	1944年9月
7	ドイツから	オストプロイセン北部	ドイツ降伏	1945年5月
8	日本から	南樺太・千島列島	日本降伏	1945年9月
9	"	北方四島(係争中、日本が返還要求)	日本降伏	1945年9月



出典

<http://dvor.jp/maps1.htm>

外国領土の編入による都市名の変遷



地図の背景色凡例

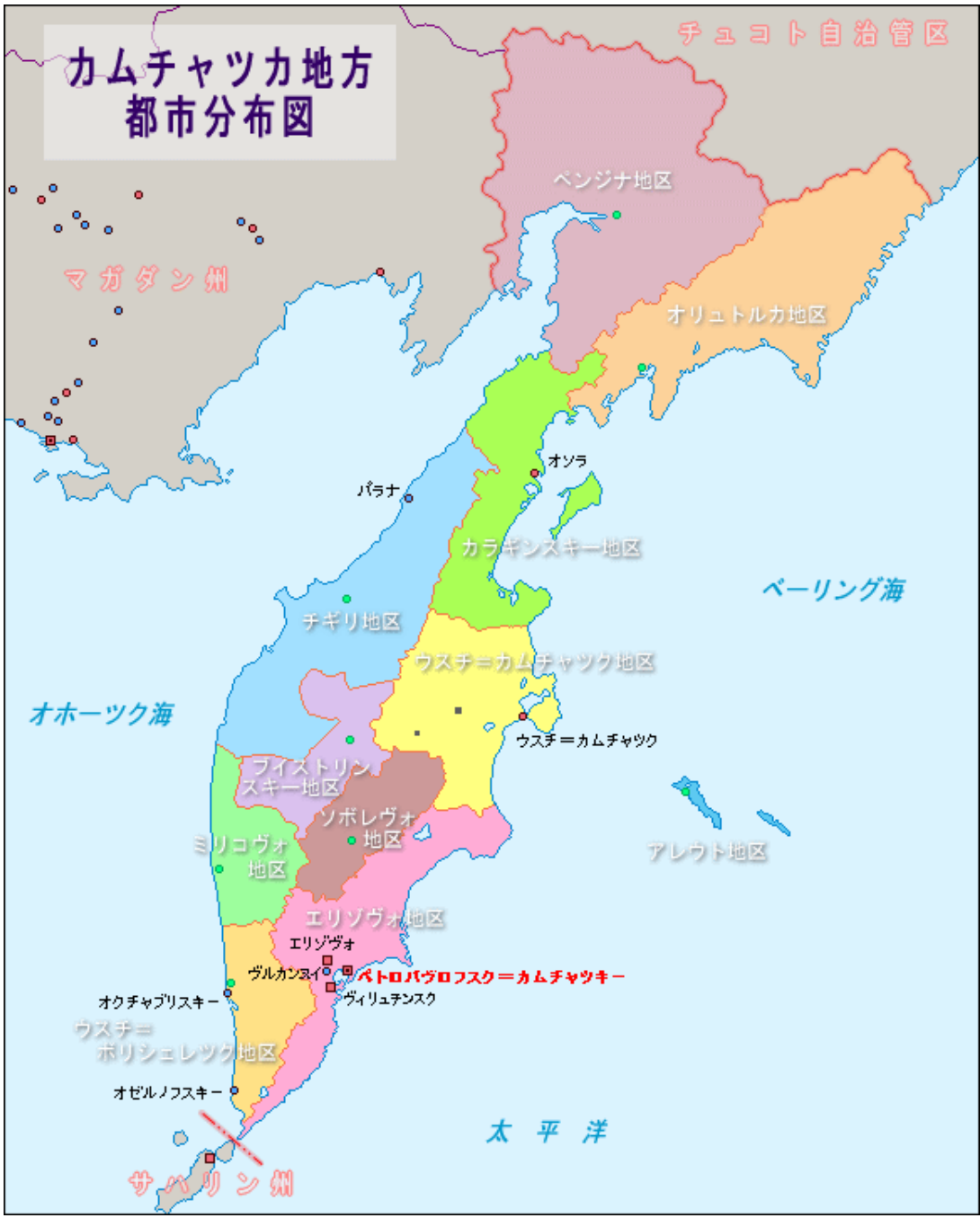
第二次世界大戦以前 (1937年ごろ)						
ドイツ	ドイツ オストプロイセン北部	フィンランド	フィンランド ベツァモ回廊	フィンランド カレリア地峡 サラ、クーサモ	日本 南樺太 千島列島	日本 国後、択捉 歯舞、色丹
ドイツ	ポーランド ヴィルノ	リトアニア	エストニア	エストニア ナルヴァ東部 ベチョリ	トゥヴァー	日本
ポーランド	ポーランド 東ポーランド	ラトヴィア	ラトヴィア アブレネ	ソ連	ソ連 ロシア連邦共和国	日本 朝鮮北部
第二次世界大戦後 (1946~1990年)						
東西ドイツ	ソ連 カリーニングラード州	フィンランド	ソ連 ペチョンガ地区	ソ連	ソ連 サハリン南部 クリル諸島	北方領土 (ソ連が 実効支配)
ポーランド	ソ連 ヴィルニユス	ソ連 リトアニア共和国	ソ連 エストニア共和国	ソ連 イヴァンゴロド ベチョールイ	ソ連 トゥヴァー (自治共和国)	日本
ポーランド	ソ連 西白ロシア 西ウクライナ	ソ連 ラトヴィア共和国	ソ連 プイトロヴォ	ソ連	ソ連 ロシア連邦共和国 (注1)	北朝鮮
現在 (1991年以降)						
ドイツ	ロシア カリーニングラード州	フィンランド	ロシア ペチョンガ地区	ロシア	ロシア サハリン南部 クリル諸島	北方領土 (ロシアが 実効支配)
ポーランド	リトアニア ヴィルニユス	リトアニア	エストニア	ロシア イヴァンゴロド ベチョールイ	ロシア トゥヴァー共和国	日本
ポーランド	CIS諸国 西ベラルーシ 西ウクライナ	ラトヴィア	ロシア プイトロヴォ	CIS諸国 (ロシアを除く)	ロシア (注2)	北朝鮮

(注1) 1940年から1956年まで存在したカレロ=フィン共和国を含む。クリミア半島は1954年ウクライナへ譲渡

(注2) 地図上のクリミア半島は含まない

サハリン州都市分布図





ウクライナ



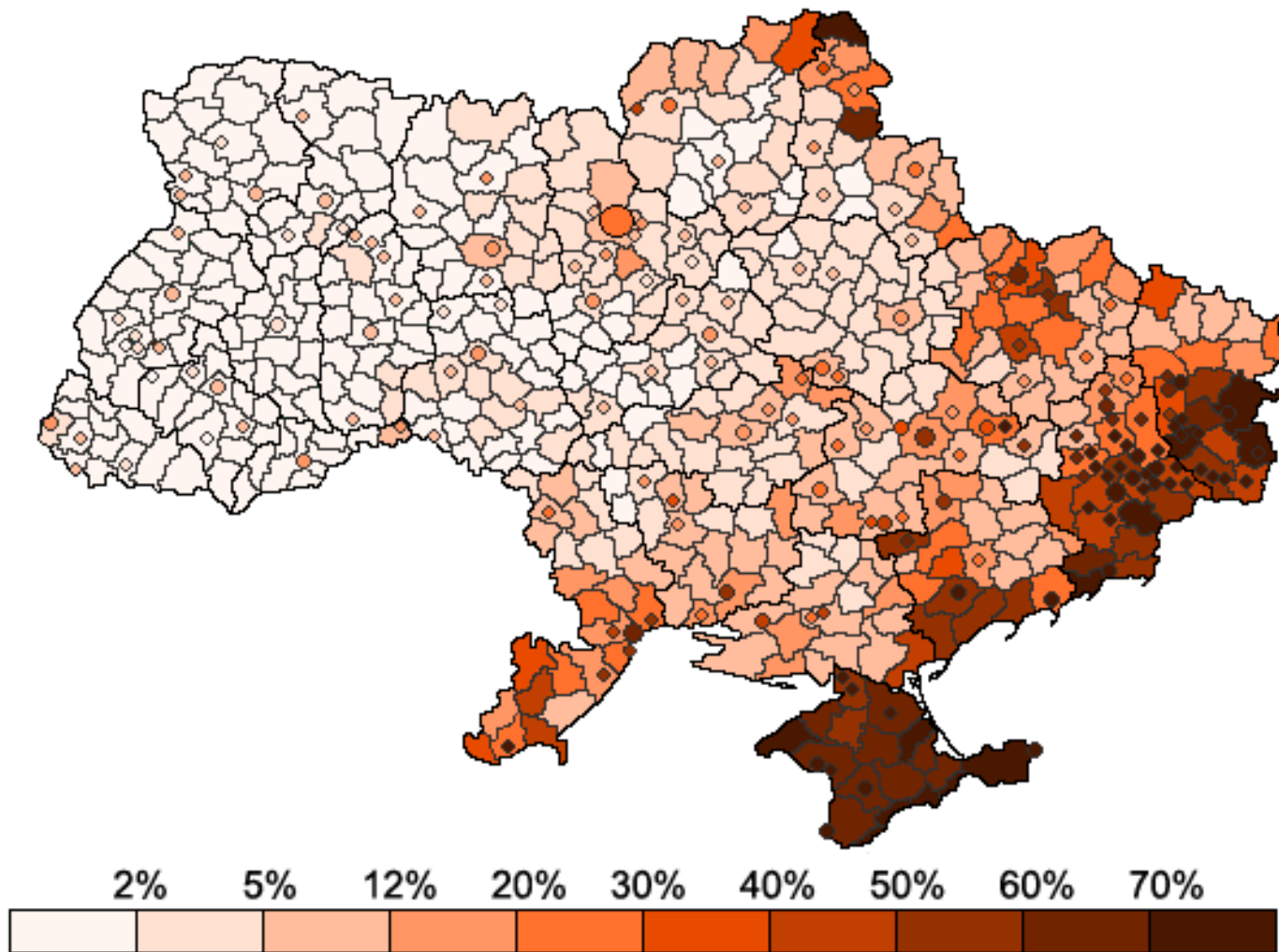
No.	州	州庁所在地	No.	州	州庁所在地
1	イヴァーノ＝フランクウシク州	イヴァーノ＝フランクウシク	13	チェルニウツィー州	チェルニウツィー
2	ヴィーンヌィツャ州	ヴィーンヌィツャ	14	テルノーピリ州	テルノーピリ
3	ヴォルィーニ州	ルーツィク	15	ドニプロペトロウシク州	ドニプロペトロウシク
4	オデッサ州	オデッサ	16	ドネツィク州	ドネツィク
5	キエフ州	キエフ	17	ハルキウ州	ハルキウ
6	キロヴォグラード州	キロヴォグラード	18	フメリヌィーツィクィイ州	フメリヌィーツィクィイ
7	ザカルパッチャ州	ウージュネロド	19	ヘルメノ州	ヘルメノ
8	ザポリージャ州	ザポリージャ	20	ポルタヴァ州	ポルタヴァ
9	ジトームイル州	ジトームイル	21	ムィコラーイウ州	ムィコラーイウ
10	スームィ州	スームィ	22	リヴィウ州	リヴィウ
11	チェルカースィ州	チェルカースィ	23	リウネ州	リウネ
12	チェルニーヒウ州	チェルニーヒウ	24	ルハーンシク州	ルハーンシク
-	特別市		No.	自治共和国	自治共和国の首都
-	キエフ (首都)	セヴァストポリ	25	クリミア自治共和国	シンフェロポリ

ウクライナ

ロシア語母語話者割合(2001年)



Рідна мова російська за переписом 2001 р.

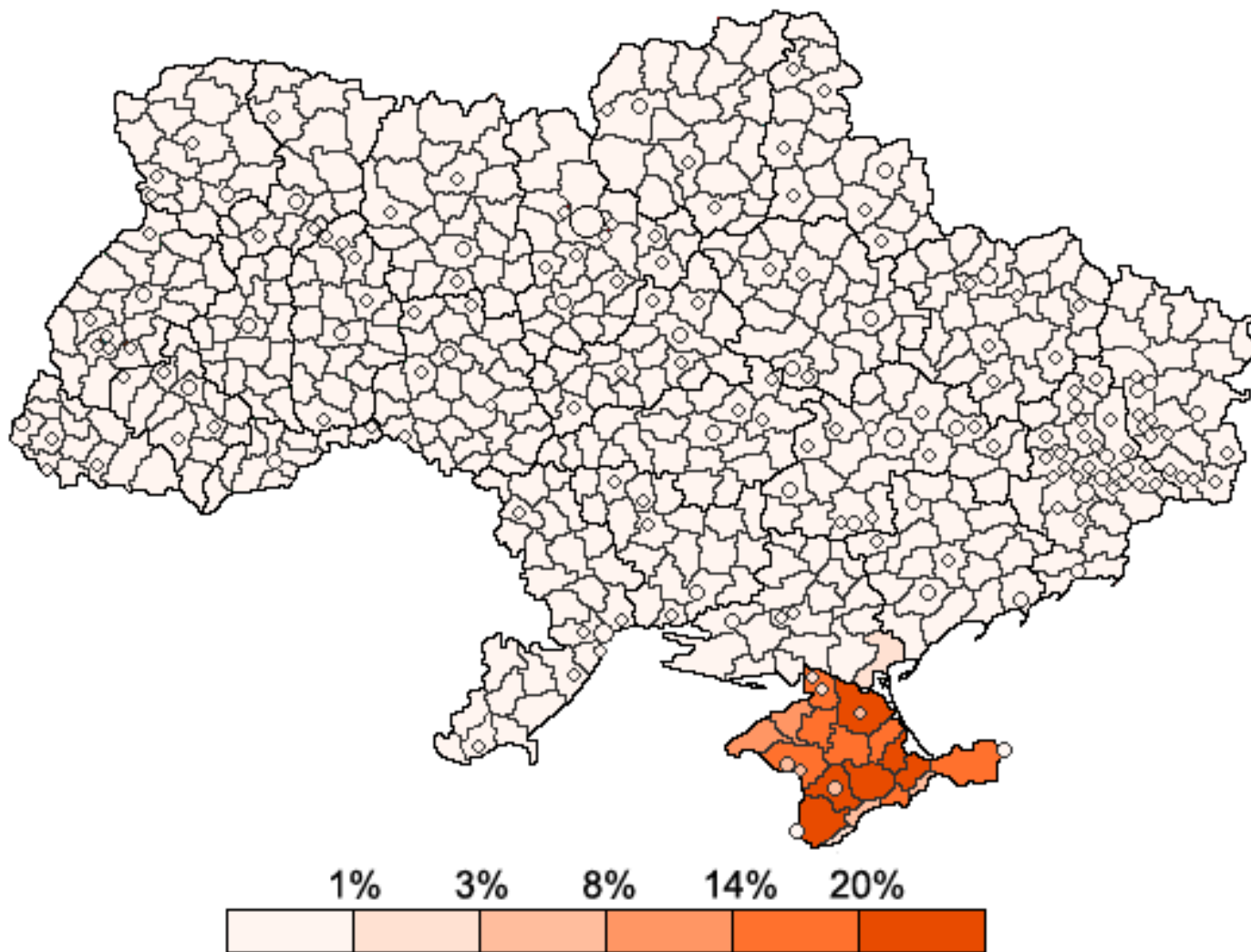


出典: Wiki ウクライナ

クリミア・タタール語母語話者割合 (2001年)

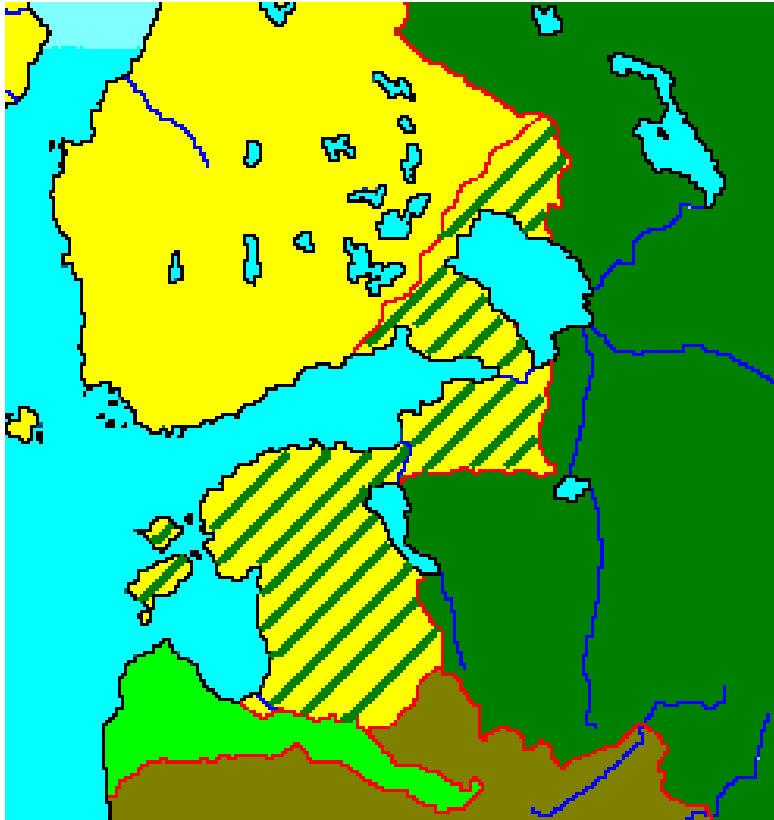


Рідна мова кримсько-татарська за переписом 2001 р.



ポーランド・リトアニア共和国の東半を占領したロシア





黄色が戦前のスウェーデン領、緑色がロシア領、黄色地に緑の斜線がニスタット条約でロシアに割譲された地域、黄緑は1795年にロシアに併合されたクールラント公国。

フィンランド大公国の領域



ポーランド分割

copyright: atlas 2004



第一次ポーランド分割(1772年)

- ロシア併合地
- プロイセン併合地
- オーストリア併合地

第二次ポーランド分割(1793年)

- ロシア併合地
- プロイセン併合地

第三次ポーランド分割(1795年)

- ロシア併合地
- プロイセン併合地
- オーストリア併合地



出典: Wiki ロシア帝国の歴史

ポーランド分割

copyright: atlas 2004

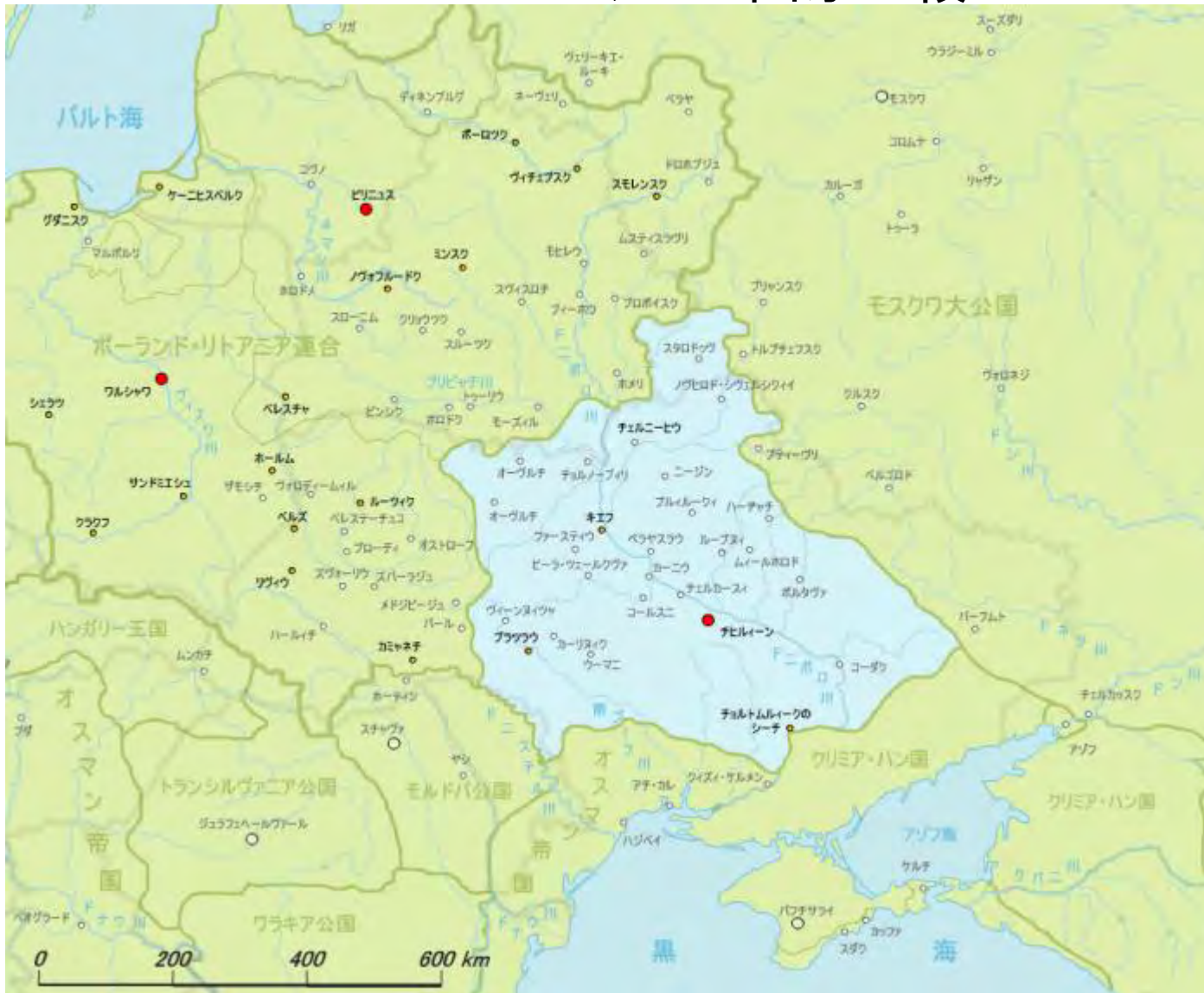


ロシア帝国統治下のリトアニア



- コヴノ県
- ヴィリナ県
- スヴァルキヤ県
- 現代のリトアニアの国境

ヘーチマン国家の領土



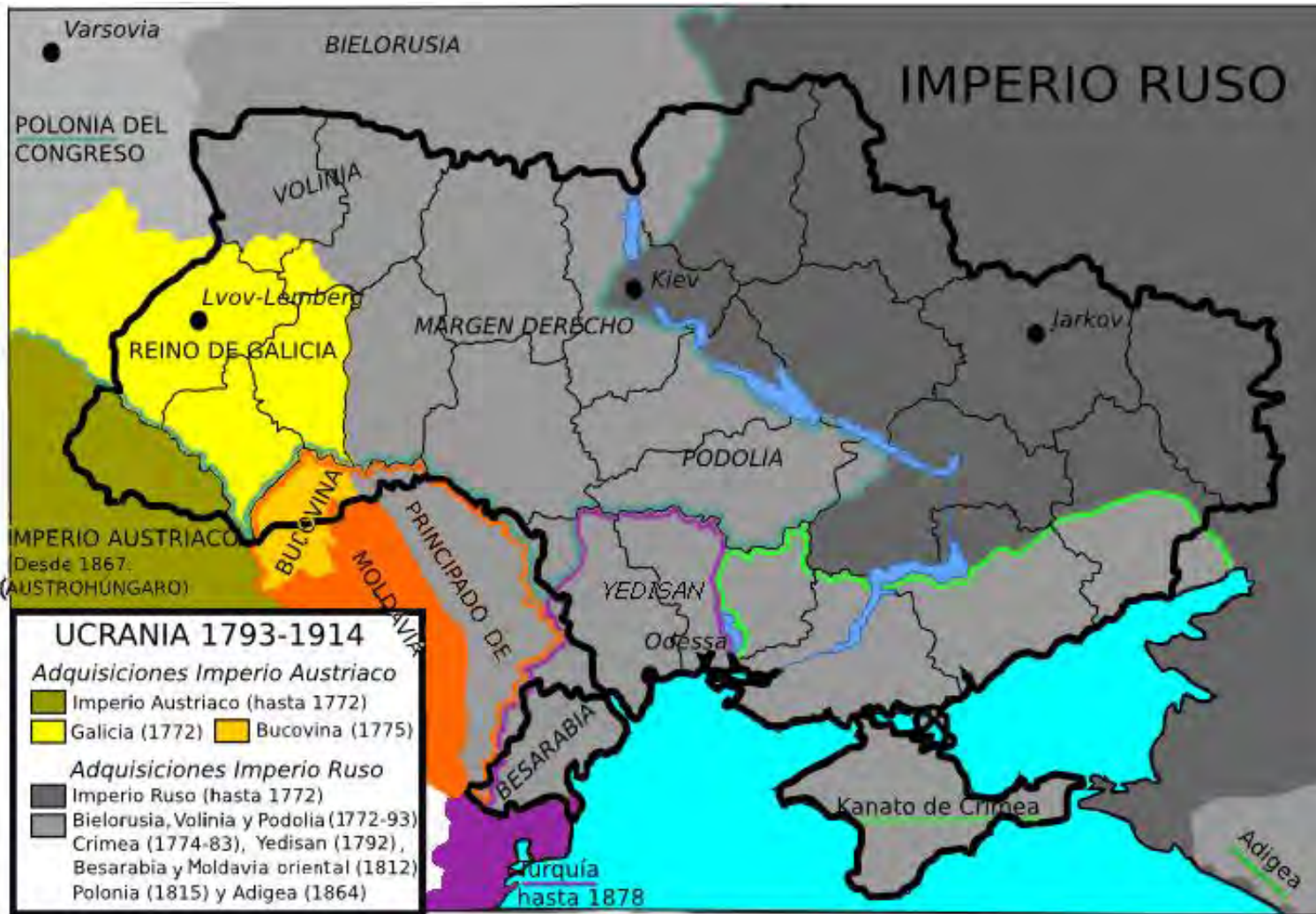
ヘーチマン国家の領土

ヘーチマン国家(ウクライナ語: Гетьманщина[1])は、1649年から1782年の間にドニプロ・ウクライナに存在したコサックの国家である。ポーランド・リトアニア共和国における最大のコサック反乱であるフメリニツキーの乱によって誕生した。国家の君主であるヘーチマンによって統治されたことから、ヘーチマン国家と呼ばれた。正式な国号はザポロージャのコサック軍)である。

1654年以後、ロシア・ツァーリ国とロシア帝国の保護下に置かれ、1667年にコサック内戦とロシア・ポーランド戦争の結果、アンドルソヴォ条約でロシアとポーランドの間に分割された。1699年にポーランド支配下の右岸ウクライナにおいてコサックが廃止されると、ロシア支配下の左岸ウクライナにおいて存続し、ポーランド・オスマン帝国とクリミア・ハン国からロシアを守る役割を果たした。

1709年に大北方戦争の際、ロシアから離れてスウェーデンの保護を受けようとしたが失敗、18世紀中にロシア政府の政策により政治的・経済的の独立を失った。1764年にロシアのエカチェリーナ2世はヘーチマン制を廃止、翌1765年に国土はロシアの小ロシア県に編成され、1786年にコサック連隊制が廃止となった。

帝政時代のウクライナ・クリミア・ベッサラビア。(スペイン語)



■ 1772年以前のロシア帝国の領域
■ 1772年以降の獲得領土。
ベラルーシ・ヴォルギーニ・ポジーリャ(1772-1793)、
クリミア(1774-1783)、エディサン(1792)、ベッサラビア
(1812)、ポーランド(1815)、アディグ(1864)

18世紀後半の黒海北岸部



ロシア帝国

オスマン帝国

キュチュク・カイナルジ条約(1774年)でのロシア併合地。

独立時のクリミア・ハン国の領土。(1783年併合)

ロシア領ベッサラビア地方の領土変遷

La Moldavie avant les Russes (1484-1812)



La Moldavie divisée (1812-1856)



La Moldavie divisée (1856-1878)



La Moldavie divisée (1878-1918)



1812年以前。ドニエストル川の東側がロシア帝国、西側にオスマン帝国の属国モルダヴィア公国が存在し、南部はオスマン領ベッサラビア(ブジャク地域に相当)だった。

1812年のブカレスト条約により、プルト川以東のモルダヴィア公国領とオスマン領がロシアに併合された。さらに1829年のアドリアノーブル条約でドナウ河口がロシア領となった。

クリミア戦争の結果、1856年に結ばれたパリ条約によってベッサラビア南部がモルダヴィア公国領(1859年にワラキア公国と同君連合、1861年にルーマニア公国)となる。

露土戦争にロシアが勝利し、1878年のサン・ステファノ条約でベッサラビア南部がロシア領に復帰した。

1905年 - 1917年のカフカース総督府の領域。(スペイン語)



1900年時点のロシア領中央アジア。(ロシア語)



- Хива-ханство (Россия保護領)
- Бухара-амират (Россия保護領)

ロシア連邦軍

ロシア連邦軍 略称: ВС РФ、英語: Armed Forces of the Russian Federationは、ロシア連邦の軍隊。ソ連崩壊後の1992年に、旧ソ連の核兵器を含むソビエト連邦軍の主力を継承して成立した。

3軍・3兵科

ロシア連邦軍は、陸軍、海軍、空軍の3つの軍種と、戦略ロケット軍、航空宇宙防衛軍、空挺軍の3つの独立兵科から成る。

ロシア陸軍

ロシア空軍

ロシア海軍

ロシア戦略ロケット軍

ロシア航空宇宙防衛軍)

ロシア空挺軍

ロシアの人口はソ連崩壊後の1992年より減少傾向にあり、他の先進国同様少子高齢化にも悩まされている。ロシアは、中国に対抗して人海戦術型の戦闘形態を採ることは困難になりつつある。100万人の兵力でさえ維持する必要があるかロシア国内でも疑問の声がある。

日本とロシアを比較すれば、日本の人口1億2,700万人より少しだけ多い1億4,190万人のロシアが、自衛隊の24万人弱の4倍以上の100万人の兵力を維持することになる。

米軍事アナリスト「ロシアは今も欧州における強力な軍事パワー」



© Photo RIA Novosti/Mikhail Fomichev

米国の国際情報分析雑誌「ナショナルインタレスト」の中で、軍事アナリストのデイヴ・マジュムダール氏は「今日欧州には、4つの強力な軍隊が存在しているが、そのリストの筆頭はロシアである」とし次のように続けた—

「かつて欧州の諸大国は、世界を支配していたが、二つの大戦の後には、どの国も米国やソ連に軍事力において肩を並べる事が出来なかった。しかし冷戦後、ソ連の脅威がなくなった事に関連して、一連の欧州の国々の軍の『筋力』が衰退して行った。

ロシア軍は、何千発もの戦略及び戦術核弾頭を保有している。この事実が、黙ったままで、ロシアを地球上における超大国の一つの座につかせている。

ロシアは、自分の力で発展を遂げ、潜水艦や弾道ミサイルそしてジェットエンジン、さらには人工衛星から軍服に至るまで、自分達の軍の為のあらゆる装備や武器・兵器を生産している欧州でも数少ない国の一つである。

またロシアには、さらにもう一つ隣国と比べて大きく優れた点がある。それは、非常に多くのよく訓練された軍事要員である。」

なお雑誌「ナショナルインタレスト」の軍事力分析では、ロシアに続き、2位がフランス、3位英国、4位ドイツという順位で評価がなされた。

リアノーヴォスチ

軍用機生産台数でロシアが初めて米国を抜く



© Photo: RIA Novosti/Antoni Denisov

2014年、ロシアは新型軍用機の新産台数では**100機**を越し、初めて米国を追い抜いた。ロシア国有の「統一航空機製造会社」の軍用機プログラム部、ゴンチャレンコ副部長がラジオ局「モスクワのこだま」に対して明らかにした。

それによると生産計画にあげられていた100機のうち95機が軍機および軍事演習機。

ゴンチャレンコ副部長は、「2013年の露空軍への納品は軍機、軍事演習機が合わせて68台、軍事輸送機1台だったが、今年の計画は特殊航空機も含め100機」と語り、航空軍事機器の刷新計画も首尾よく遂行されていると報告している。

ロシア軍クリミア基地が地中海のパワーバランスを変える



© Фото: «Вести.Ru»

ウクライナでロシア軍のクリミア部隊の質的向上が指摘されている。

ウクライナの識者らはクリミアがロシアの「非常に巨大な基地」に変貌したことを宣言した。これは米国やEUを心配させないではないことだ、と彼らは語る。なぜならば、クリミアにはロシアの戦略兵器も展開する見込みだからである。

NATOメンバーであるルーマニアやブルガリアほか黒海に出口をもつ国々には巨大な軍事基地が存在しない。

NATO圏から僅か200-300kmのところロシアのミサイルが配備されることになる。米国防総省はこ

ロシア防衛管理センターのデータ処理システム 米国防総省の3倍強力



© Photo: RIA Novosti/Alexei Druzhinin

「ロシア連邦国家防衛管理センターのデータ処理システムの総計算能力は、米国防総省にある同様のシステムの3倍も高い。保存データの総量について言えば、ロシアのシステムは、米国のそれを、ほぼ20倍も上回っている。」 金曜日、防衛管理センターのミハイル・ミズィンツェフ所長は、プーチン大統領にこのように報告した。

ロシア連邦国家防衛管理センターは、今年12月1日から軍に配備され、来年にもフル稼働が予定されている。ここにあるシステムにより、リアルタイムで軍の全ての部隊の状況を知ることができるほか、世界のあらゆる地点での危機的状況をシュミレートできる。

32% Crude petroleum

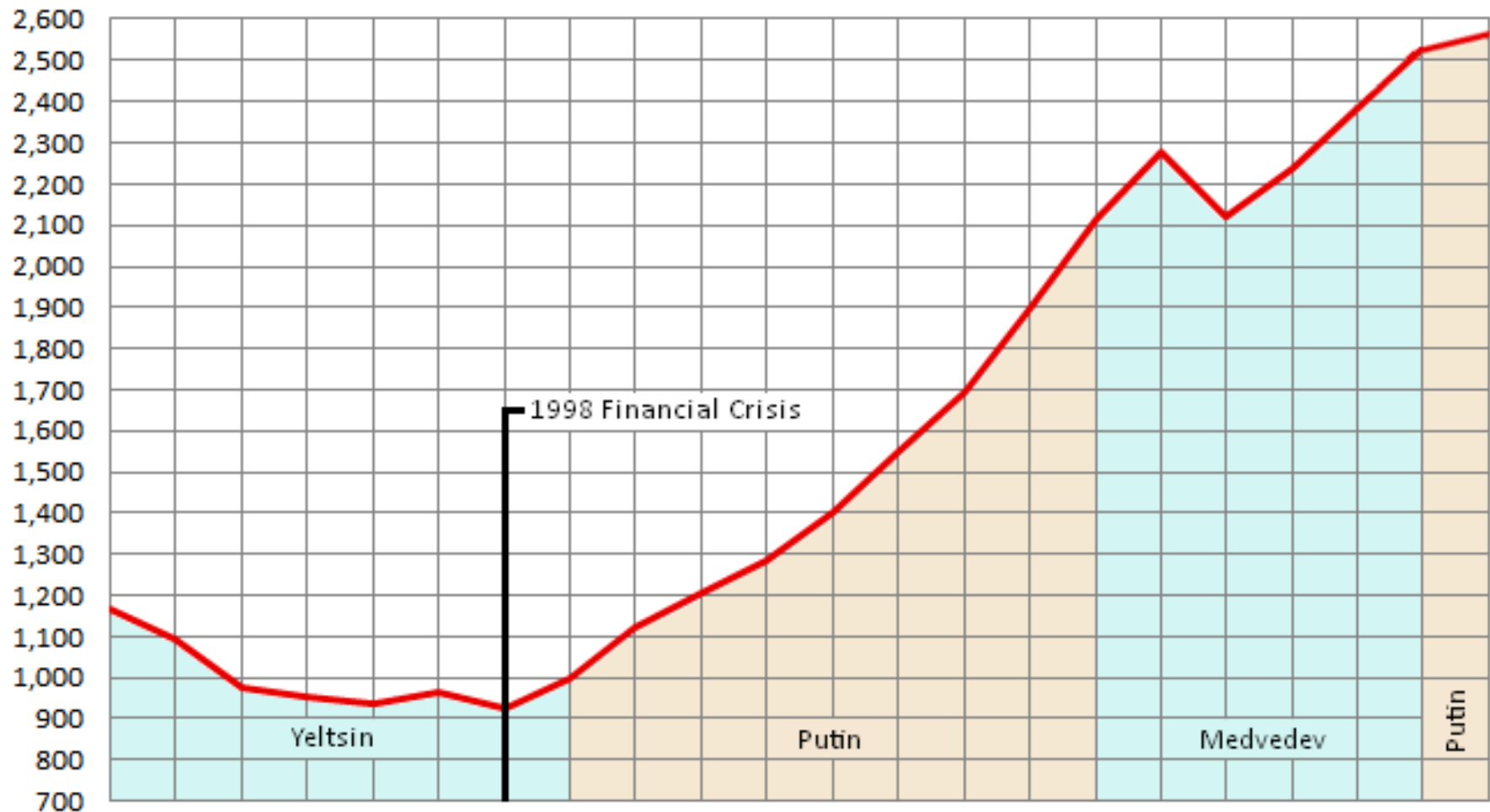
13% petroleum gases

26% Unclassified transactions



Russian GDP (PPP) Since Fall of Soviet Union

Billions of International Dollars (2013)



1992 1993 1994 1995 1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013

Source: International Monetary Fund (<http://www.imf.org>)